

日本地衣学会

No.77

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	ご案内	275
	第6回観察会（静岡県下田市）のご案内／ 安斉唯夫・木下靖浩・小山内行雄	275
	会員通信	276
	地衣類の白化現象？／安斉唯夫	276
	雲南地衣類調査行2006 ―ハリガネキノリ属を求めて―（その2）／ 原田 浩	277

ご案内 Announcement of the 6th JSL Field Meeting by Anzai T., Kinoshita Y. & Osanai Y.

第6回観察会（静岡県下田市）のご案内

安斉唯夫・木下靖浩・小山内行雄（地域活性化委員会関東）

今年の学会主催 1泊観察会は下記のとおり伊豆下田において開催されます。伊豆の海と山を会場にして、温泉大浴場につかりながらおいしい魚も食べよう、という企画です。今回の観察地は、昨年より何度も足を運び伊豆半島中を探しまわった末に見つけた絶好の観察地です。世話人一同は無事開催を祈念して、温泉・舟盛り付きの体験宿泊も済ませております。皆様のご参加をお待ちしています。

* * *

●日時／

9月15日(土曜日)

12:20 伊豆急下田駅集合、バス・自家用車で須崎へ移動。

13:00 食事後恵比須島にて海岸の地衣類観察・採集宿泊；日本工業大学下田寮

9月16日(日曜日)

9:00～14:00 北湯ヶ野須郷川沿いにて低山地、川沿いの地衣類観察・採集

14:30 伊豆急下田駅解散

- 場 所／ 静岡県下田市
- 講 師／ 原田浩先生（千葉県立中央博物館）
- 持ち物／ 初日の昼食（観察場所付近で購入することは出来ません）、雨具等
- 参加費／ 1万円（参加費＋宿泊費1泊2食）。日帰り参加費千円。
- 定 員／ 会員20名、非会員若干名。
- 世話人／ 小山内行雄、木下靖浩、安斉唯夫
- 申込み方法・締切／

メールか郵便にてお申し込みください。なお、後日で結構ですが携帯電話、現地までの交通機関（特に車の方は同乗可能人数）もご連絡ください。

締切 8月31日。

●申込み先／

安斉唯夫 kozaiwa@jcom.home.ne.jp 或いは

〒174-0064 東京都板橋区中台 1-6-15

木下靖浩 ponkichi@mtj.biglobe.ne.jp

地衣類の白化現象？

Lichen bleaching? — *Cladonia* lichens affected with whitening disease in moss garden on roof.

安齊唯夫（コケ庭管理人）

岡本太郎美術館（川崎市）のコケ庭はおよそ 2000 m²の広さを有するが、強風が吹き抜け、日陰のない屋上という過酷な立地環境を反映して、蘚苔類と地衣類が混交する特異なコケ庭が成立している。このところの梅雨

空で、エゾスナゴケやウマスギゴケの蘚苔類は美しいモスグリーンを見せているが、ハナゴケ類（以下、“ハナゴケ”と称す。種名のハナゴケとは異なるので注意）の地衣類も灰緑色のひと味違った色調を添え、変化に富んだ景観が広がっている。

地衣類を生かしたコケ庭を目指す私は、これ以上増えてくれるな、という思いと頑張れ“ハナゴケ”という交錯した思いの中で、雑草取りに汗を流している。特に降水量に恵まれたこの時期は地衣体の薄緑、子器の橙とともに小さい体に豊かな色彩を見せ、その美しさに一人陶然となることも多い。

しかし、私のこの美しい“ハナゴケ”の園には正体不明の病魔が取り憑き、なすすべもなく枯れてゆく“ハナゴケ”を見守るしかない老いたコケ庭師は大変心を痛めている。

私を困惑させている“ハナゴケ”の病は、地衣類の白化現象といった症状を呈する。外見上似ていると思われるサンゴの白化現象は、新聞紙上でとりあげられたところによると、枯死した白い帯が次第に拡大進行し、最終的には群体を死滅させてしまうと言われ、感染症の一種と考えられている

（朝日新聞 7/12）。“ハナゴケ”（盃の中央から発芽しているのでヤグラゴケの 1 種と思われる）群落にみられる症状も群落の周辺から発生し、次第に白く枯死させながら広がってゆく。枯れたように見える“ハナゴケ”

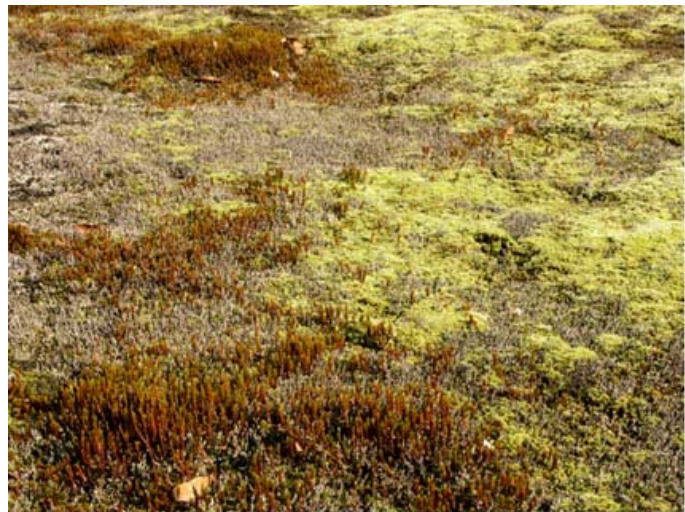


図1. 屋上のコケ庭。黄緑色はエゾスナゴケ、褐色はウマスギゴケ、灰褐色はハナゴケ属地衣類（上）。地衣類の群落に芽生えたエゾスナゴケ（下）。

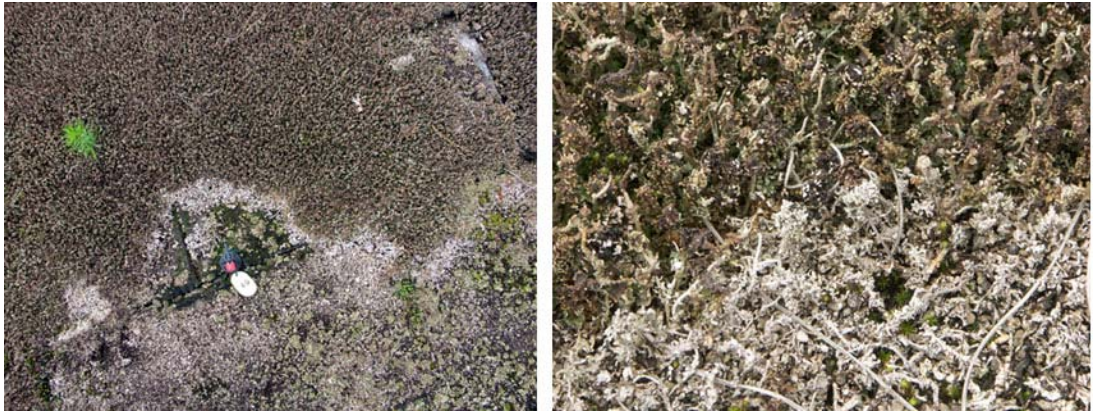


図2. ハナゴケ類をむしばむ白化現象. 写真右下から上方に向かって枯死が進行している(左). 健全な地衣類(ヤグラゴケの一種)と白く枯死した地衣体の接触部分(右).

もいつの間にか緑を回復して生きていたことに驚かされることがしばしばあるが、この白化現象は、生き返る、ということのない不治の病といえる。

藻類が先に消滅してしまうのか、藻類を飼育している

という菌類が死滅して藻類も命運を共にしているのか見当も付かないが、共生をテーマに開催された今年の大会シンポジウムにも刺激されて、皆さんに報告する次第です。

雲南地衣類調査行 2006 —ハリガネキノリ属を求めて— (その2)

A field trip for lichen study in Yunnan, China, 2006 (part 2) / by Harada H.

原田 浩 (千葉県立中央博物館)

2006年8月末から9月初旬にかけての雲南調査の報告記事を書いたのは、本誌70号(2006年10月5日刊)だった。今回はその続報である。

* * *

明けて8月25日、小雨の中、湖畔を過ぎ、針葉樹林をゆっくりと登っていった。蘚苔類で覆われた林床には、ところどころにカプトゴケ属 *Lobaria* の巨大なマットが広がる。木々にはナガサルオガセ *Usnea longissima* と、ハリガネキノリ属 *Bryoria* が多量に下がり、私を迎えてくれた。薄い空気と頭痛とで動き

がままならなかったが、調査をしているうちに、いつしか気にならなくなっていた。



図1. 白っぽいナガサルオガセとともに、暗褐色のハリガネキノリ属が“たわわに実った”針葉樹。



図1. 眼帯地の周りに生えるナナカマド属の灌木に生えるハリガネキノリ属。長く伸び房上となる *Bryoria himalayana* (白矢印) と、短くて球状になる *Bryoria confusa* (黒矢印) とは、対照的である。

最も目立つのは *Bryoria himalayana* である。特に細い枝から房状にぶら下がり、長さ 40cm を超えそうなものも珍しくない。何か獣のシッポのようである。針葉樹といわず、シャクナゲ、ナナカマドの仲間の低木にも、この暗褐色の尻尾が垂れ下がる光景は、圧巻である。ハリガネキノリ *B. trichodes* も混じるが、大きな房にはならない。“オオオニノヒゲ” *B. confusa* も毛玉の

ようにあちこちの小枝にまとわりついている。背の低い *B. divergescens* は、陽のあたる針葉樹の小枝にまとまって生えている。

これほどハリガネキノリ属が景観的に重要な位置を占める場所を私はこれまで見たことがない。雲南が、少なくとも東アジアにおける本属の分布中心であろうということを、あらためて確信することになった。

ここ老君山は金糸猴 (Golden Monkey) の保護区だと聞いた。しかも、この猿は、ハリガネキノリ属を食べるのだという (Wang 2004, *Lichenology* 3: 25-26)。これほど多量に生えるのであれば、なるほど、それを食する動物が居てもおかしくないと、納得したくなるというものだ。

(つづく)

編集後記 ニュースレターの編集は、昨年まで編集委員会として行ってきましたが、学会誌の編集とは別の体制で行いたいという原田の希望に基づき、今年の74号から暫定的に原田の一人体制でした。そして今号からは、明治薬科大学の木下薫さんに加わっていただき2名で行うことになりました。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌62号222ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see

No. 62, p. 222 of this publication.

- Newsletter from the Japanese Society for Lichenology, no. 77, pp. 275-278; eds. Harada H. & Kinoshita K., published by the Japanese Society for Lichenology, 31 July 2007.

日本地衣学会ニュースレター 77号

発行日：2007年 7月 31日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2007 日本地衣学会 (© 2007 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。